

日本原子力学会の活動と 今後の取組みについて

平成25年8月25日
福島特別プロジェクト

ミッション

目的

福島住民の方々が少しでも早く現状復帰できるよう住民の方々と国や環境省との間で**インターフェース**の役割をする。

ゴール

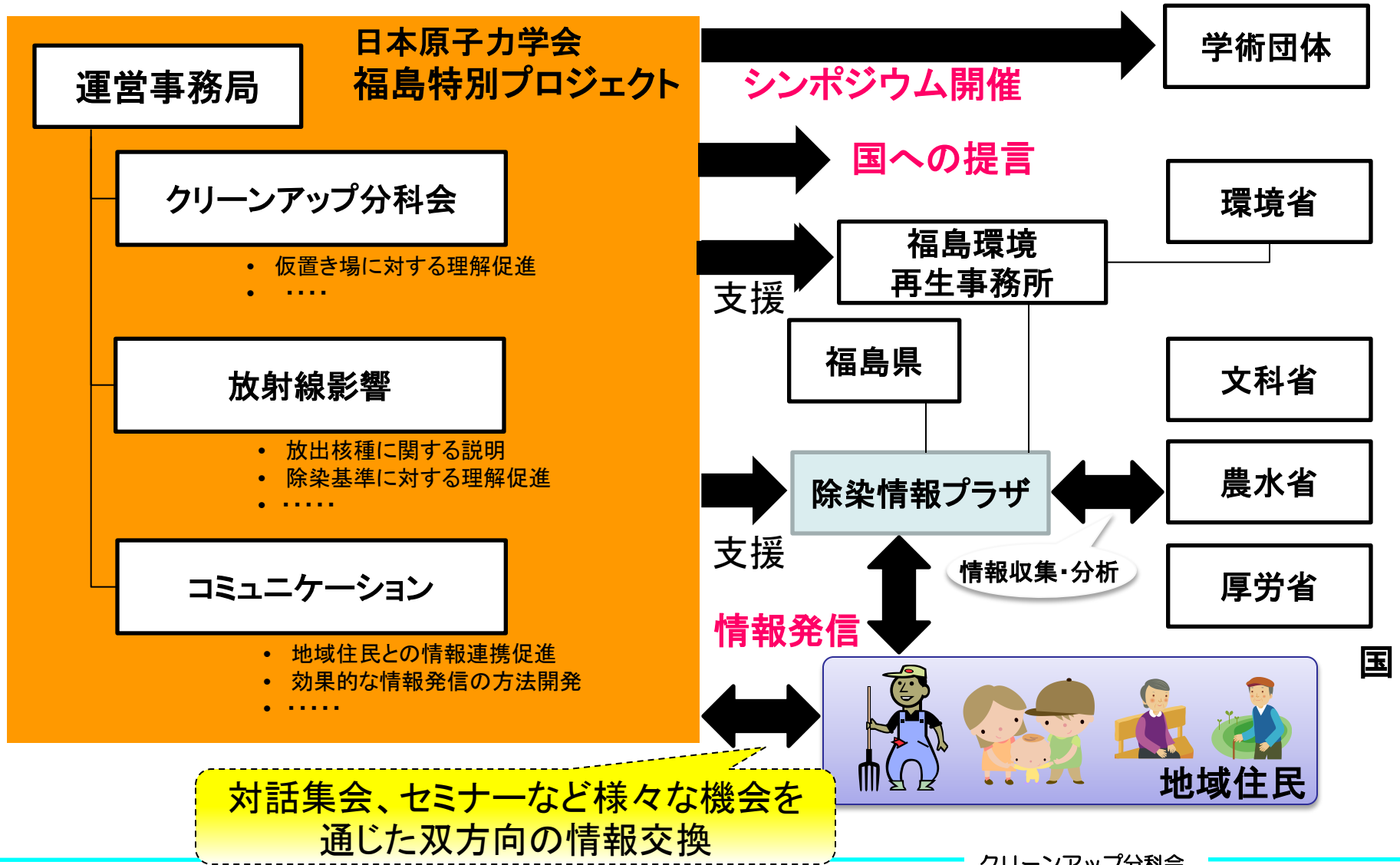
中間貯蔵施設が設置され、運用されるまでの**3年間**を当初の実施期間とする。

役割

住民の立場に立ち、必要な情報を原子力の専門家集団とし**正確でかつわかりやすく**発信する。

住民の方々の疑問や不安に住民の立場に立って説明する。
発言と活動は**独立な立場**で行う。

福島特別プロジェクトの機能



対話フォーラムで住民と討議

・5/13第1回除染推進に向けた対話フォーラムを福島市にて開催

・8/4第2回除染推進に向けた対話フォーラムを会津若松市にて開催

・10/14第3回除染推進に向けた対話フォーラムを白河市にて開催

・11/23第4回除染推進に向けた対話フォーラムを郡山市にて開催

・2/17第5回除染推進に向けた対話フォーラムをいわき市にて開催

・H25年度は形式を変えて実施予定。福島県よりアドバイザーリストの依頼あり



福島でのシンポジウムの開催

① 「第1回 除染の推進に向けた地域対話フォーラム」

(福島県、福島市、環境省と共同主催)

日 時 平成24年5月13日

場 所 コラッセふくしま

参加者 約250名

② シンポジウム「東京電力福島第一原子力発電所の今は？ 未来は？」

日 時 平成24年5月26日

場 所 コラッセふくしま

参加者 約250名

③ シンポジウム「東京電力福島第一原子力発電所事故後の取り組み」

日 時 平成24年6月16日

場 所 コラッセふくしま

参加者 約250名

④ シンポジウム「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組み」

日 時 平成25年1月20日

場 所 コラッセふくしま

参加者 約200名

JA とのコラボ

【「2012秋の大会」での展示】

「JA新ふくしま/全農福島」による「福島県農産物贈答受付」の開設

① 「総受付」脇(9/20 9:00-18:00 @総合科学部 東講義棟2F)



② 情報交換会会場入口(9/19 17:00-19:30 @学士会館2F)

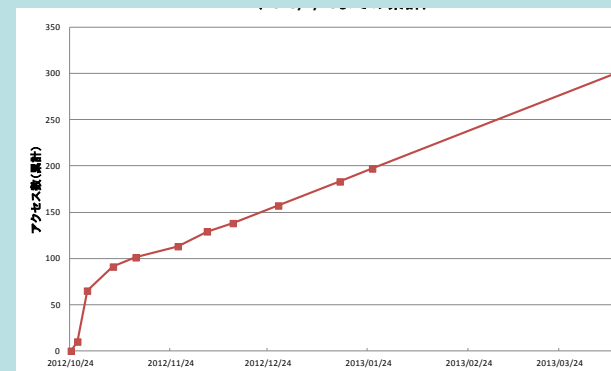


・斡旋商品は別添2参照

・予約件数;65件、予約金額;約36万円

【「2103春の年会」での展示】

JAに販売員の派遣は要請せず、会場内でジュースを無人販売。(158本のジュースを販売し、22,046円の入金あり。(購入単価;約130円/本に対し、販売単価;約139円/本))



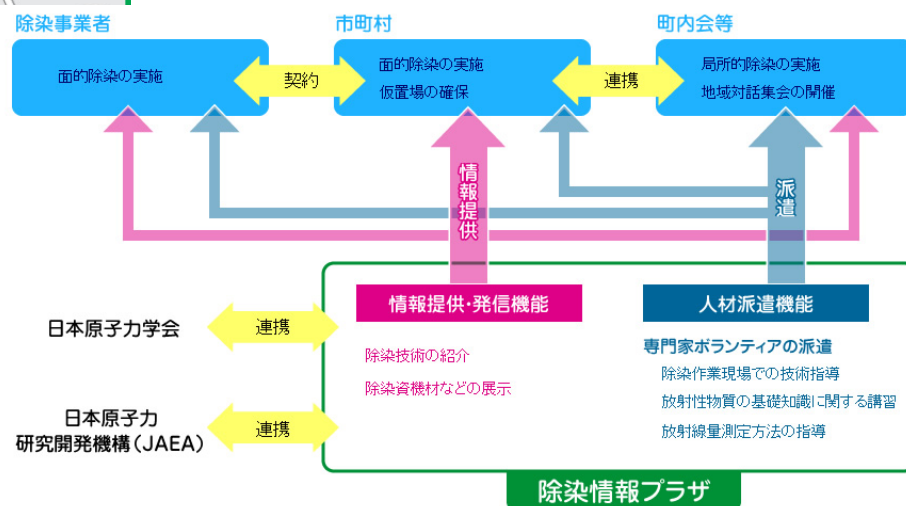
学会HPから「JA全農福島ショップ」へのアクセス件数
(2013/4/10までの累計)

除染情報フラザへの専門家派遣

除染情報フラザ: 除染専門家の派遣や除染情報に関する発信を行う拠点。
土日曜日に専門家を質問対応のために



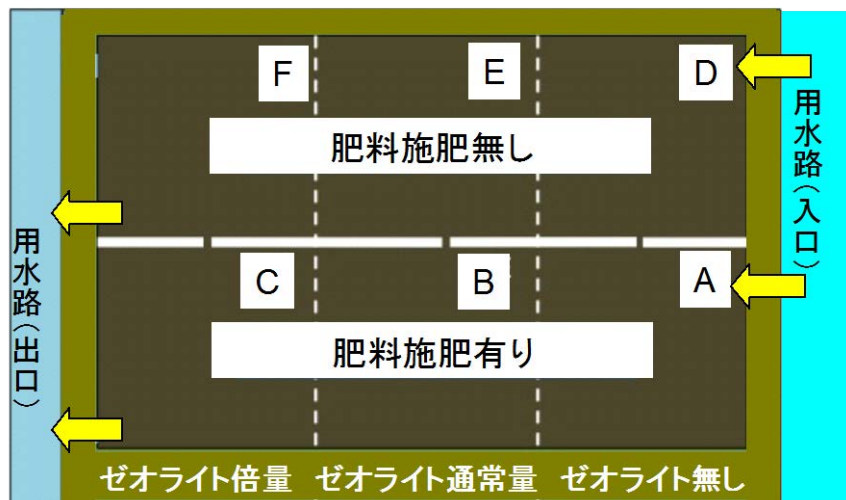
2012年1月21日(土)オープン
7月7日(土) リニューアルオープン



環境省除染情報プラザパンフレットより

稲作試験の実施

稲作試験を実施し、玄米へのCsの移行率を測定。



- 5/16耕起 : 1区画 9箇所土壌試料採取 対角線配置
- 6/4: 田植え後 (土壌試料) 1区画 5箇所採取 対角線配置
(液相試料) 1区画 3箇所採取 対角線配置
- 7/4: 液相試料回収
- 7/18: 土壌及び液相、水稻試料 (別途モミガラ用水試験試料回収)
- 10/2: 土壌および液相、水稻試料回収(測定中) 上流ダム水試料回収(再測定)
- 10/31: 玄米回収 計測実施

今後の活動

- 福島の地元の目線に立ち、専門家的な立場で開催
定期的なシンポジウムの開催「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組みー住民被ばくの現状と環境動態ー」(本日)

次回開催？

- リスクコミュニケーション活動:進め方検討中
- 除染情報プラザへの支援:土、日専門家派遣および市町村への派遣
- JAとのコラボ:日本原子力学会HPおよび
「秋の大会」「春の年会」での出張販売
- 継続的な稲作試験の実施による実証データの取得:
米への移行メカニズムの解明

H25年度実施試験内容

試験田・・・水田を4区画に区分

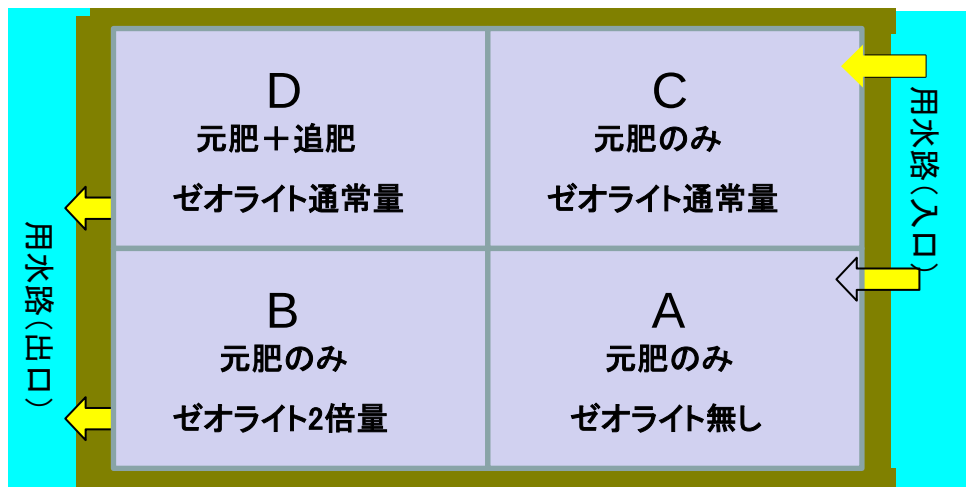


写真1 田植後の試料採取

1) 肥量添加方法

元肥：耕作時にゼオライトと共に添加 追肥：田植時に添加

2) 評価項目

- ・C区画 vs. D区画：Cs移行抑制に対する追肥の効果
- ・A、B、C区画
：Cs移行抑制に対するゼオライト添加の効果

測定項目

試料：土壤中Cs(-134, Cs-137)濃度(処置前、収穫後)
イネ中Cs濃度(収穫後)、玄米Cs濃度(脱穀後)



写真2 イノシシ対策
クリーンアップ分科会

リスクコミュニケーション活動の進め方

- ・ 環境省福島再生事務所や福島県との情報交換による課題の抽出
- ・ 市区町村へ出向き、コミュニケーションの課題について情報収集
- ・ 日本原子力研究開発機構（JAEA）のJCO事故におけるリスクコミュニケーション活動についての調査と整理



東京電力の福島事故に関するリスクコミュニケーション活動についての
検討および方針の決定



ご静聴ありがとうございました